



紙上
博物館

写真で見る 土岐市の文化財

11月1日から7日は、文化財保護強調週間です。

昭和24年に世界最古の木造建築物である法隆寺金堂が炎上し、貴重な壁画が焼けてしまいました。その後、多くの人々の努力により、昭和29年11月3日に修理工事が完工しました。これを記念して、文化財に関心を持ち、大切に作る心をはぐくんできたために、その前後1週間が「文化財保護強調週間」として定められました。

文化財は、地域の歴史や文化を物語る貴重な財産です。土岐市には、こうした文化財が数多く伝わっています。

The museum on magazine

絵馬
えま
(妻木町・岐阜県重要文化財)



江戸時代の初め、
慶長14(1609)
年に妻木城主の妻
木家頼の弟、頼久
によって八幡神社に奉納されたものです。



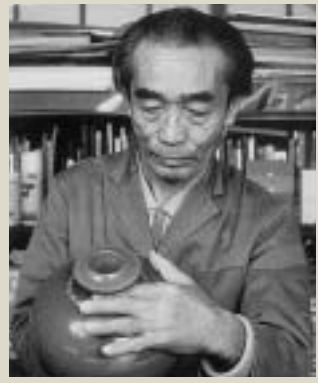
じゅうおうそん
十王尊 (土岐津町・市有形文化財)

江戸時代初期に作られたものと伝わっています。
十王は、人間の死後にその罪の重さを決める裁判官
で、生前に供養すると罪が軽くすることができると
信じられています。



しゃかによらいりゅうぞう
釈迦如来立像
(妻木町・岐阜県重要文化財)

崇禅寺の本尊です。鎌
倉時代後期に、京都嵯峨
野にある清涼寺の釈迦如
来像を手本に製作された
ものと考えられています。



せいじ こうらい
青磁の技法・高麗青磁の技法
(下石町・市無形文化財)

中島正雄さんは長い間、陶磁器の研究をされ、
素晴らしい焼き物を作られています。特に青磁や
高麗青磁は、形状の美しさや釉薬の発色が優れて
います。



八王子神社の鰐口
わにぐち
(鶴里町・市有形文化財)

鰐口は神社や寺の軒先に掛け、人を集める時に打
ち鳴らしたものです。この鰐口は、室町時代の天文
23(1554)年に当時の細野村の住人が八王子神社
に寄進したものです。



そうぜんじ そうもん
崇禅寺総門
(妻木町・市有形文化財)

長い歴史の重みを感じさせる崇禅寺の門です。江
戸時代の万治元(1658)年に領主の妻木氏が断絶
しますが、その後に妻木城の大手門を移築したもの
と伝わっています。

しじこ
四耳壺
(泉町・市有形文化財)

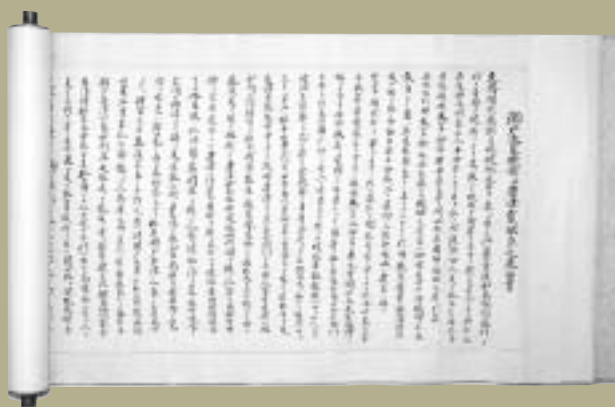


安土桃山時代に作られた茶壺です。底に「大栢源十郎」の銘があり、可見市の大萱で桃山時代に窯を築いた加藤源十郎景成の作と考えられています。



うちばやし
打囃子 (曾木町・市無形民俗文化財)

今から300年ほど前に愛知県の岡崎から伝わったといわれています。現在は、曾木町のみで行われており、夏の祇園祭や秋祭りでは、伝統的な調べが鳴り響きます。



せとおおがまやきものならびにからつかまとりたてのらいゆしよ
瀬戸大窯焼物並唐津窯取立之来由書
(泉町・市有形文化財)

美濃焼の礎を築いた陶祖、加藤景延の活躍を伝える文書です。景延が九州で学んで連房式登窯を築窯したこと、関ヶ原の戦いの際に妻木氏に従って戦ったことなどが書かれています。



ちごいわ
稚児岩 (駄知町・市天然記念物)

駄知町の県道沿いを北流する肥田川の中にあります。長さ、高さともに18m、重さ13,125tと推定される花崗岩の巨岩で、町のシンボルとして親しまれています。



おおこまいぬ
白山神社の大狛犬 (泉町・市有形文化財)

この狛犬は、高さ90cm、重さ120kgの大きな陶製狛犬で、江戸時代後期、享和元(1801)年に作られ、白山神社に奉納されたものです。



やつるぎ
八剣神社社額
(肥田町・市有形文化財)

表面に「八剣宮」と彫り、金泥を施しています。この裏面には、江戸時代前期の貞享元(1684)年の銘があり、社殿を再建した際に奉納されたものと考えられます。

現在、土岐市には国指定4件、県指定8件、市指定65件、国の登録文化財1件の文化財があります。今回はその一部を紹介しました。

土岐市の文化財には、中世にこの地方を支配した土岐氏、その系譜を引く土岐明智氏や妻木氏に関わる指定文化財が妻木町を中心に多くあります。そして、美濃焼の生産地としての歴史を語る窯跡や市内の窯で焼成された焼き物が、文化財として多く指定されています。

また、天然記念物にはシデコブシやハナノキなどこの地方に特徴的な植物や、シラタマホシクサ、ミカワバイケイソウといった伊勢湾の周辺地域のみには生育する貴重な湿地帯植物があります。

土岐市の指定文化財をみると、自然環境に恵まれた地域に生きた先人たちの姿が浮かび上がってきます。

指定されたもの以外にも大切な文化財がたくさんあります。私たちの祖先が生きた証しとして、今に伝えてくれた文化財に出合える施設を紹介します。なお、開館時間や休館日などは、各施設にお問い合わせください。



美濃陶磁歴史館

泉町久尻1263番地
☎(55)1245

黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部といった美濃桃山陶を中心に、美濃焼の歴史を物語る陶磁資料を展示しています。現在は、企画展「茶碗」を開催中です。近くには国指定史跡の元屋敷陶器窯跡や乙塚古墳、段尻巻古墳があります。



妻木公民館

妻木町1370番地の1
☎(57)4564

妻木公民館には展示室が設けられています。そこには妻木町の歴史に関する資料が展示されています。特に妻木城主であった妻木氏ゆかりの展示資料が充実しています。



マルホンすりばち館

駄知町2321番地の55
☎(59)8730

すり鉢の生産日本一を誇る窯元の展示施設です。昭和初期の「モロ」と窯、煙突が残ります。日本一のすり鉢や古いすり鉢、昔の窯道具などを展示しています。



駄知印判館

駄知町2321番地の24
☎(59)8442

明治時代に量産された磁器の絵付けには型紙を使った摺絵や、エッチング技法を利用した銅版が取り入れられます。これらの技法を用いた『印判』の焼き物を展示しています。



下石窯元館

下石町900番地の1
☎(57)3528

下石陶磁器工業協同組合の施設です。下石町で作られた陶磁器とその歴史を紹介しています。現在は、「美濃下石焼 クラフトデザイン」展を開催しています。

文化財に関するお問い合わせは、文化振興課(内線556)へどうぞ。